

機関番号：14201

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20530816

研究課題名（和文） 社会科における生産労働実践の総合的調査研究

研究課題名（英文） A Research on Labor Education in Social Studies Education

研究代表者

木全 清博 (KIMATA KIYOHIRO)

滋賀大学・教育学部・教授

研究者番号：40142765

研究成果の概要（和文）：1960年前後の生産労働実践は、戦後社会科実践史において次の3点で重要であった。1つは、民間教育研究サークルの教師が社会科カリキュラムを自主編成した点、2つは系統的な社会科教育内容を作成し実践した点、3つは民間教育サークルが各プランを批判的に検討しあった点。研究成果は報告書148頁にまとめた。

研究成果の概要（英文）：Labor Education in 1960's School Education produce three important point in Social Studies Education. 1 Teachers belong to "Private Social Studies Circle (NihonSeikatsuKyoiku Renmei, Rekishi Kyoikusya Kyogikai)" develop the Systematic Social Studies Curriculum, 2 They practice on Labor Curriculum Plan, and reconstruction a Teaching Material Contents on Social Studies, 3 Teachers criticize and discuss another Labor Curriculum Plan in Private Social Studies Circle.

Our Research published a Report on 148 page.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究代表者の専門分野：社会科教育学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：生産労働実践、民間教育運動、社会認識の系列、内容の系統性・順次性、日本生活教育連盟

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究の開始当初は、1980年代半ばに日本社会科教育学会で研究代表木全、森脇らの報告以外は、先行研究がなかった。木全、森脇は当時、上越教師の会の江口武正、日立教科研の鈴木正氣らの聞き取りから生産労働の教育実践を整理していた。

(2) 社会科における生産労働実践に関する研究の意義として、1 社会科教育実践史の上で教師による社会科カリキュラムの改造運動、2 社会科教育内容の系統性・順次性の初めての提起、3 民間社会科サークルの集団的検討が行われていたことの3点に求めた。

当時の実践者や研究者への聞き取りを行い、未発掘の資料を収集して、現在停滞している社会科教育研究に新しい実践からの視点を見出そうという問題意識で取り組んだ。

## 2. 研究の目的

(1) 戦後社会科教育実践史において、1950-60年代の生産労働実践の位置と意義を明らかにして、その後の社会科実践への影響を分析する。全国各地での民間教育研究サークルが、社会科の教育課程（カリキュラム）改造を科学性・系統性に基づいて行うとした理由を当事者の聞き取りから明らかにする。

(2) 1958年版学習指導要領への批判運動として、生産労働実践は提起された。これは教師による社会科学の集団的な研究活動と、その成果を社会科教育内容の科学性に生かす運動と連動していた。

この動向を全国青年教師連絡会の活動や、日本生活教育連盟の教師たちや歴史教育者協議会の教師たちのサークル活動を、地方のサークル機関誌の資料集を通じて明らかにする。

(3) 中央での教育雑誌や地方のサークル機関誌を検討し、生産労働実践の裾野の広がりを実証する。上越プラン、香川プラン、東京プラン、道歴教協プランの作成者や、授業実践の実施者から聞き取りや資料提供をもとに、具体的な授業実践レベルの実像を明らかにする。

## 3. 研究の方法

(1) 1950-60年代に直接、社会科において生産労働プランを作成した民間教育研究サークルの当事者からの聞き取り調査（北海道歴教協、日生連の上越教師の会、香社研青年グループ、東京サークル、兵庫尼崎サークルなど）を行い、実際の生産労働プランの背景、生産労働実践の授業のようす、実践プランと業のずれの問題、当時の教師と子ども集団の教育課題などをつかむ。

(2) 文献研究として、全青教の機関誌と大会記録、地方の全青教機関誌（『香川のわかいもの』、『わかいもの』）、日生連機関誌『生活教育』、歴教協機関誌『歴史地理教育』、『北海道歴史教室』などと、各地方組織の生産労働プランと授業実践の記録を収集して検討する。

(3) 3カ年の聞き取り調査及び生産労働実

践の実践プランは、毎年社会科教育の2学会で報告する。全国研究大会の報告にあたり、事前に香川プランでは岡野啓、道歴教協では山下國幸、東京プランでは高木浩朗、兵庫尼崎プランでは末方鐵郎の各氏に内容確認をしてもらった。

## 4. 研究成果

(1) 社会科の生産労働実践に取り組んだ実践者のインタビュー（聞き取り）調査と、当時の民間サークルの授業実践・記録の資料収集調査の2本立てで行った。調査対象は、3年間で北海道歴教協5名、日生連の香川県社会科教育研究会青年グループ2名、上越教師の会2名、東京社会科サークル2名、兵庫尼崎サークル1名の4団体の実践者と研究者12名からの聞き取りを行った。

(2) 北海道歴教協では、とくに山下國幸、伊藤定雄、鈴木秀一ら3氏の聞き取りから、生産労働プランの成立過程と道歴教協支部サークル内での論議の過程が明確になった。

香社研関係では、岡野啓、亀山信夫両氏の聞き取りから、戦後直後のコア・カリキュラムづくりの先輩世代から青年グループが「自立」する実践を模索し、社会科内容の科学性を生産労働論実践で行ったことがわかった。

上越教師の会の梅沢勤氏、山賀昭治氏ら3名の聞き取りから、地域にねざした農業地域の生産労働の現実のリアリティーを、系統的な教育内容として学ばせようとした点が明らかになった。

東京サークルは、斉藤孝、高木浩朗の両氏の聞き取りを行ったが、私立桐朋小の斉藤と墨田区立業平小の高木とでは、生活教育論に立つ生産労働実践といっても、かなり異なっていたことがわかった。

兵庫尼崎サークルの末方鐵郎氏の聞き取りは、1960年後半期や70年代にまで生産労働実践が継続されていく貴重な証言を得ることが出来た。

(3) 研究成果報告書においては、聞き取り調査記録としては、1高木浩朗、2末方鐵郎、3鈴木秀一の3氏の聞き取りを収録した。

高木氏は、日生連東京サークルで活動するが、1964年に岡山県に転出し、岡山大附属小や笠岡市立小学校などで岡山県社会科教育研究会の中心メンバーとして活躍する。岡山県内で東京時代からの日生連の社会科実践を継承・発展させていった。

現在も、全国各地の当時の実践者と連絡し合っておられ、戦後直後からの民間教育研究サークルの社会科実践資料を保存されている。今回、貴重な実践資料を借り出すことができ、複写することができた。

香社研青年グループの岡野啓と亀山信夫の聞き取り、及び上越教師の会3氏の聞き取りに関しては、すでに前年にテープを起こして「戦後教育実践史の証言」（臼井嘉一代表の科研費報告書）にまとめている。

(4) 1950年代末から60年代半ばまでの社会科実践に関わって、生産労働の実践資料を中心に、これまで未発掘であった地方の民間教育サークルの機関誌、研究会議事録、授業実践資料などを収集した。

香社研と香社研青年グループでは、香社研『社会科教室』第10、52号以降、香社研機関誌『社会科教室』第11、14、16、20号、1960年2号、同青年グループ『香川のわかいもの』、記念誌類『香社研12年史』1961年、『香社研20年史』1971年、『香社研30年史』1983年、研究集録は1969年、71～74年、77、79年の文献資料を収集した。

なお、香社研青年グループの生産労働実践に関して、木全が1985年に特定研究報告書に「社会科における〈生産労働〉論—香社研青年グループの実践の検討—」を報告しているが、今回のような基礎資料は使われていなかった。授業実践の背景となる香川県の教育情勢を分析できていなかった。今回の研究成果報告書の中に、同論文を85-106頁に採録した。

(5) 上越教師の会に関しては、先行研究としてすでに和井田清司・釜田聡らが『江口武正「上越教師の会」教育実践資料集』第1～第3集(290頁、268頁、116頁)を刊行しているので、機関誌『わかいもの』他の江口武正資料を活用した。

木全は和井田清司他編『「上越教師の会」の研究』(学文社 2007年)に、論文「生産労働を軸とした社会科実践・上越プランを中心に」を投稿している。今回の成果報告書の75-84頁に、同論文を一部補正して採録している。

(6) 北海道歴教協の生産労働実践は、山下國幸らが奈井江プランとして自主的な社会科カリキュラムづくりと系統的な教育内容の自主編成を行っていた。同歴教協機関誌『北海道歴史教室』の創刊号から全号を収集

した。聞き取りは山下氏に3回、元北海道大学教授鈴木秀一氏、伊藤定雄氏らから行った。

道歴教協の生産労働実践は、木全が1986年に北大教育学部教育方法研究室『教授学の探求』第4号に「北海道歴教協の〈生産労働〉実践」として発表している。当時の論文では調べられなかったが、今回の調査研究から1950年代の奈井江プランや郷土教育全協や作文教育の会などの民間教育サークルの実践との連続性と非連続性が明確になった。

また、鈴木秀一氏の聞き取りから、60年の道民教結成につながる、地域住民と教師の連携による民間教育研究運動に影響を与えたことがわかった。

(7) 日本生活教育連盟の香社研青年グループ、上越教師の会、東京社会科サークルの生産労働三プランの提起と生産と労働を結合させた社会科実践が行われた前提として、1952年結成の全国青年教師連絡協議会の活動と交流があったことがわかった。50年代半ばから60年代にかけて、全青教に結集した青年教師の自主的なカリキュラム編成と社会科内容の科学化を求める運動があった。

1958年版学習指導要領の批判的な動きとして、全青教の地方支部の教師たちは、社会科学の研究と学習内容の社会科学化に積極的に取り組んでいったのである。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

①倉持祐二、香川県社会科教育研究会青年グループの生産労働実践の展開、科学研究費補助金[基盤研究(c)]課題番号20530816 研究成果報告書『社会科における生産労働実践の総合的調査研究』、査読無、2011、107-114

②前田賢次、全国青年教師連絡協議会と地域サークルの生産労働実践—高木浩朗と末方鐵郎の社会科実践の展開を中心に—、同上、査読無、2011、115-129

③前田賢次、全国青年教師連絡協議会・東京サークルの生産労働実践、同上、査読無、2011、131-137

④木全清博、戦後社会科の教師像—岡野啓と山下國幸の軌跡—、「戦後日本の社会科教育の歴史(仮題)」、査読無、ルック社、2011・8月刊行予定

⑤木全清博、「日本社会の基本問題」と社会科三プラン、臼井嘉一研究代表 科学研究費補助金 [基盤研究 (B)] 課題番号 19330195 研究成果報告書『戦後日本における教育実践の展開過程に関する総合的調査研究 第7集 論文集』、査読無、2010、73-84

[学会発表] (計6件)

①木全清博、前田賢次、倉持祐二、社会科における生産労働の総合的研究(その4) — 全国青年教師連絡協議会と地域サークルの生産労働実践一、日本社会科教育学会第60回全国研究大会、つくば大学、2010年11月14日

②倉持祐二、木全清博、前田賢次、森脇健夫、同上(その3) — 香川県社会科教育研究会青年グループの生産労働実践一、日本社会科教育学会第59回全国研究大会、香川大学、2009年11月23日

③木全清博、倉持祐二、前田賢次、森脇健夫、同上(その2) — 北海道歴教協の生産労働実践一、日本社会科教育学会第59回全国大会、香川大学、2009年11月23日

④木全清博、倉持祐二、前田賢次、梅野正信、森脇健夫、同上(その1) — 全国青年教師連絡協議会・東京サークルと香川県社会科教育研究会青年グループの生産労働実践一、日本社会科教育学会第58回全国研究大会、滋賀大学、2008年10月12日

⑤前田賢次他、戦後日本の教育実践(6) — 地域教育実践の事例的研究(京都・北海道を中心に) — 日本教育学会第68回全国大会、東京大学駒場キャンパス、2009年8月28日

⑥木全清博他、戦後日本の教育実践(4) — 香川地域、上越地域、三河地域の教育研究と実践一、日本教育学会第67回全国大会、仏教大学、2008年8月30日

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：

国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

木全 清博 (KIMATA KIYOHIRO)  
滋賀大学・教育学部・教授  
研究者番号：40142765

### (2) 研究分担者

前田 賢次 (MAEDA KENJI)  
北海道教育大学・教育学部・准教授  
研究者番号：80292069

倉持 祐二 (KURAMOCHI YUJI)  
京都橘大学・文学部・准教授  
研究者番号：00460684

森脇 健夫 (MORIWAKI TAKEO)  
三重大学・教育学部・教授  
研究者番号：20174469

### (3) 連携研究者

なし